

■透きとおる沖縄： 歌詞(原詩：仲吉史子 補作：南波照間雅彦)

・イントロ (キーボード)

1. 沖縄の海は 透きとおる

くり船は さざなみの中にあった  
ハイビスカスの のぞき窓  
魚たちは 虹になって  
ルルル 住んでいた

2. 沖縄の山は 透きとおる

そよ風は こだまして吹いていた  
シーサーグァーの 赤い屋根  
梯梧の下で 髪は風と  
ルルル たわむれる

・間奏 (エレクトリック・ギター)

3. 沖縄の空は 透きとおる

透きとおる向こうにも 空があった  
アダンの影の 浜千鳥  
沈む夕日を 啼きながら  
ルルル 追いかけた

・後奏

◆曲の思い出： 仲吉史子さんは、少女の頃、戦前の壺川(つぼかわ)に住んでいました。

家の前は、すぐ浜辺になっていて「透きとおる沖縄」で歌われる風景を見て育ったそうです。

私は、この歌の歌詞とメロディーが素晴らしいのは、仲吉さんが実際に目にし、

心に感じたままを、素直に歌っているからだと思います。

・那覇市壺川は、沖縄都市モノレール「壺川駅」周辺の地域となります。